

2020 年度 修士課程 研究指導一覧

◆修士課程 経済学専攻

コース名	研究領域名	専修名	指導教員名		指導言語 (日本語:J／ 英語:E)		研究指導 コード
	経済理論	理論経済学		荒木 一法 准教授	J	E	1A3
				石川 竜一郎 准教授	J	E	1Ah
			※	上田 晃三 教授	J	E	1Ac
				荻沼 隆 教授	J	E	1A2
			※	笠松 学 教授	J	E	1A5
				河村 耕平 教授	J	E	1Ae
				Associate Prof. KVASOV, Dmitriy	—	E	1Af
				笹倉 和幸 教授	J	E	1A6
				田中 久稔 准教授	J	E	1A4
			戸村 肇 准教授	J	E	4A9	
		数理経済学		船木由喜彦 教授	J	E	1A8
		実験経済学	※	Prof. VESZTEG, Robert Ferenc	—	E	1Ad
		経済学説史		坂本 達哉 教授	J	E	1Ag
	統計・計量 分析	計量経済学		近藤 康之 教授	J	E	2A2
				星野 匡郎 准教授	J	E	2Ab
				坂野 慎哉 教授	J	—	2Aa
		統計学	※	西郷 浩 教授	J	E	2A3
		数量経済政策	△	上田 貴子 教授	J	E	2A6
		産業エコロジー		中村慎一郎 教授	J	E	2A1
		金融工学		玉置健一郎 准教授	J	E	2A7
		ファイナンス	※	山本 竜市 教授	J	E	2A8
		応用マクロ計量経済学		片山 宗親 准教授	J	E	2Ac
				Prof. BAAK, Saan Joon	J	E	2A9
		経済史	西洋経済史		(未定)		
	日本経済史			川口 浩 教授	J	—	3A3
	西洋経済史			小林 和夫 准教授	J	E	3A6
	国際日本経済史		※	鎮目 雅人 教授	J	E	3A4
	アジア経済史		※	本野 英一 教授	J	E	3A5
	経済政策	経済政策理論		(未定)			
		産業組織論		(未定)			
		農業経済学		下川 哲 准教授	J	E	4Aa
		金融論		小倉 義明 教授	J	E	4A6
		政治経済学方法論		清水 和巳 教授	J	E	4A7
		応用マクロ・ファイナンス	※	小枝 淳子 准教授	J	E	4A8
		公共政策	社会政策		白木 三秀 教授	J	E
	社会保障			(未定)			
	人事経済学			大湾 秀雄 教授	J	E	5Ab
	労働経済学		※	村上由紀子 教授	J	E	5A3
	公共経済学			須賀 晃一 教授	J	E	5A4
				安達 剛 准教授	J	E	5Ac
	財政学			(未定)			
	環境経済学			有村 俊秀 教授	J	E	5A7
	公共政策		※	福島 淑彦 教授	J	E	5A8
	医療経済学			野口 晴子 教授	J	E	5A9
	政治経済学			浅古 泰史 准教授	J	E	5Aa

経済学 コース	国際経済	国際経済論		金子 昭彦 教授	J	E	6A6
				内藤 巧 教授	J	E	6A3
				濱野 正樹 准教授	J	E	6A8
		開発経済論		深川由起子 教授	J	E	6A4
		アジア経済論	※	戸堂 康之 教授	J	E	6A7
		国際政治経済学(経済)		小西 秀樹 教授	J	E	6A5
		空間経済学		齊藤有希子 准教授	J	E	6A9
		開発と環境の経済学		高橋 遼 准教授	J	E	6Aa
国際政治経済学 コース		国際経済論		金子 昭彦 教授	J	E	6E6
				内藤 巧 教授	J	E	6E3
				濱野 正樹 准教授	J	E	6E8
		開発経済論		深川由起子 教授	J	E	6E4
		アジア経済論	※	戸堂 康之 教授	J	E	6E7
		国際政治経済学(経済)		小西 秀樹 教授	J	E	6E5
		空間経済学		齊藤有希子 准教授	J	E	6E9
		開発と環境の経済学		高橋 遼 准教授	J	E	6Ea
		数量経済政策	△	上田 貴子 教授	J	E	2E6
		農業経済学		下川 哲 准教授	J	E	4Ea
		政治経済学方法論		清水 和巳 教授	J	E	4E7
		公共経済学		須賀 晃一 教授	J	E	5E4
				安達 剛 准教授	J	E	5Ec
		環境経済学		有村 俊秀 教授	J	E	5E7
		公共政策	※	福島 淑彦 教授	J	E	5E8
		政治経済学		浅古 泰史 教授	J	E	5Ea

※: 研究指導教員名に付されている「※」印の教員は 2020 年度の学生募集は行いません。

△: 研究指導教員名に付されている「△」印の教員は 2020 年度 4 月入学のみ募集します。

□: 研究指導教員名に付されている「□」印の教員は 2020 年度 9 月入学より募集します。

(注) 指導言語: J 指導教員が日本語での研究指導を行う。指導言語: E 指導教員が英語での研究指導を行う。

修士課程研究指導内容紹介

▼あ〜お ▼か〜こ ▼さ〜そ ▼た〜と ▼な〜の ▼は〜ほ ▼ま〜も ▼や〜わ

あ〜お

研究指導名	政治経済学	担当	浅古 泰史 [准教授] Ph. D. (Economics) (ウィスコンシン大学マディソン校)
研究テーマ	本研究指導は、「公共選択論」「政治経済学」あるいは「数理政治学」と呼ばれている分野において修士論文を書くことを目的とする学生を対象とする。また、政治に限らず企業組織などに関しゲーム理論を用いて応用分析する学生も対象とする。中心となる分析手法は応用ゲーム理論となるため、実証分析・ケーススタディ・歴史分析・マクロ経済理論分析などを主な手法として用いたい学生は対象としない。ただし、政治経済学に関する実証分析に関しては受け入れる。私の研究テーマは、以下の本で紹介されているものに近い。 ● Scott Gehlbach, Formal Models if Domestic Politics, Cambridge University Press. ● 浅古泰史『政治の数理分析入門』木鐸社 研究指導は、各学生の研究・サーベイの進捗状況の報告が中心となる。学部レベルのゲーム理論、ミクロ経済学、経済数学の知識を前提とする。主な使用言語は英語とする。		

研究指導名	公共経済学	担当	安達 剛 [准教授] 経済学博士（早稲田大学）
研究テーマ	公共経済学の理論の研究を指導する。具体的な研究テーマにはメカニズムデザイン、社会的選択理論、租税論、社会保障、環境問題等の領域を含む。選んだ研究テーマの最新知識だけでなく、評価される研究とは何か、自身の研究の貢献部分をいかにして作るか、という点についても指導を行い、査読付き雑誌に採択されるレベルの研究成果を出す能力を身に付けることを目指す。基礎的なミクロ経済学とゲーム理論の知識と、対応する数学の知識を前提とする。		

研究指導名	理論経済学	担当	荒木 一法 [准教授]
研究テーマ	本研究指導は、ゲーム理論と契約理論に立脚した個人・集団行動の分析力を養成することを主たる目的とします。まず、ゲーム理論、契約理論、ならびにそれらの応用分野、オークション理論や交渉理論等に関する基礎知識を習得した上で、履修者が関心を持つ分野について論文を書くために必要な諸準備をすすめます。その際、特に、履修者の研究論文を正確に理解する力と、プレゼンテーション能力の向上を特に意識してゼミをすすめます。履修希望者には、①大学院初級レベルのミクロ経済学の理解に必要な、学部レベルミクロ経済学ならびに数学・英語に関する一定水準の知識を備えて入学すること、②教員および他の学生との議論に積極的に参加すること、③将来の進路について明確なビジョンをもつこと、を求めます。		

研究指導名	環境経済学	担当	有村 俊秀 [教授] Ph.D. (経済学) (ミネソタ大学)
研究テーマ	応用ミクロ経済学としての環境経済学及びエネルギー経済学の研究を、実証研究を中心としたアプローチで行う。そのため、大学院初級レベルのミクロ経済学や、計量経済学の知識を前提とする。研究指導では、これらの知識をもとに、関連する論文（英文含む）等の輪読を行う。特に、マイクロデータを用いた計量の手法の習得が必要となる。英文で書かれた論文を読むので、そのための英語力も必要となる。		

研究指導名	理論経済学	担当	石川 竜一郎 [准教授] 博士（経済学）（一橋大学）
研究テーマ	ゲーム理論の基礎的理論研究の指導を行う。特に私的情報の開示および、認識情報から意思決定に至る推論分析の指導を行う。このための準備として、ミクロ経済学・情報経済学・ゲーム理論に関する基礎的な知識を身につけておく必要がある。また推論分析のために、認識論理への興味があることが望ましい。		

Subject of Research	Experimental Economics	Supervisor	VESZTEG, Róbert Ferenc
			[Professor] Ph. D. (Universitat Autònoma de Barcelona)
Instruction	Seminar A (Spring semester) focuses on methodological issues rather than experimental results.		
	During the first half of the semester, we are going to discuss the basic principles of designing and carrying out economics experiments. This part relies on Friedman and Cassar (2004) and includes practical topics related to data collection (designing the experiment, writing instructions, programming in zTree, running the experiment) and data analysis (review of the most popular statistical techniques and the use of statistical software). The second half of the semester is dedicated to critical reflection on the methodology of experimental economics. We are going to read selected chapters from Bardsley et al. (2009) and discuss the internal and external validity of experimental results, the importance of monetary incentives in experimental economics, and how to test economic theory in the experimental laboratory.		
	Seminar B (Fall semester) focuses on experimental results rather than methodological issues.		
	Students are required to register with some specific research questions in mind and are going to work in groups (or alone if preferred). The first half of the semester is dedicated to the revision of the theoretical and experimental literature related to the chosen research questions. The second half of the semester is dedicated to the design of experiments that are suitable to deliver an answer to the chosen research questions.		

研究指導名	数量経済政策	担当	上田 貴子
			[教授] Ph. D. (経済学) (ウィスコンシン大学マディソン校)
研究テーマ	本研究指導では、ミクロデータ及びパネルデータによる家計分野の実証分析を研究課題とします。実証分析のためには、関連分野の経済理論モデルの理解、統計・計量経済学の知識、及びコンピュータースキルが不可欠です。研究指導では、修士論文トピックに関連する英語学術論文の精読、関連データのサーチ、計量経済分析ソフトによる分析を指導します。なお、企業行動や時系列分析は扱いません。		

研究指導名	理論経済学	担当	上田 晃三
			[教授] 博士（経済学）（オックスフォード大学）
研究テーマ	This course concerns macroeconomic theory and practice. Students tackle a number of questions regarding the macro economy, from a positive side (e.g., why has Japan faced with the prolonged recession?) to a normative side (e.g., what should the government do to recover the Japanese economy?). To this end, students study (1) a workhorse macroeconomic model, a DSGE (dynamic stochastic general equilibrium) model, and (2) current economic situations and problems.		
	To take this course, first and foremost, students must have strong motivations and curiosities. In addition, students are required to have sufficient understandings on mathematics and statistics, while knowledge on undergraduate macroeconomics does not matter much.		
	If you are interested, contact me during the first semester and attend the seminar as soon as possible. Early preparation is necessary.		

研究指導名	人事経済学	担当	大湾 秀雄
			[教授] 博士（スタンフォード大学）
研究テーマ	労働経済学、特に内部労働市場の機能の解明に焦点を当てる人事経済学の理論および実証研究のテーマを扱う。人的資本、人材配置、インセンティブ契約、トーナメント、離職、採用、賃金、チーム生産、管理職の生産性、適応とコーディネーション、男女格差、高齢者雇用、組織内イノベーションなどのテーマにおける先行研究を学びながら、研究課題を明確にしてもらう。データサイエンティストの育成にも力を入れており、人事データなど企業内データを用いた実証分析に関心のある学生に対しては、データ取得および実践的な活用方法について指導を行う。ゼミでは、Kuhn, Peter, <i>Personnel Economics</i> , Oxford University Press および参考文献に含まれる学術論文の輪読を行う。		

研究指導名	理論経済学	担当	荻沼 隆
			[教授]
研究テーマ	経済理論、特に選択理論とゲーム理論の研究を、限定合理性と不確実性の観点を重視して行う。また、このような研究が市場理論や契約理論や組織の理論にどのような影響を及ぼすのかを考える。この研究指導では、このような研究関心に基づき適当なテキストおよび論文を読む予定である。		
	志望学生は、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論のある程度の予備知識と分析的な研究のための数学の基礎知識が要求される。		

研究指導名	金融論	担当	小倉 義明
			[教授] Ph.D. (経済学) (コロンビア大学)
研究テーマ	本研究指導では、金融仲介理論と企業金融に関する重要文献を輪読することで、銀行理論あるいは企業金融をテーマとする修士論文作成に不可欠な基礎理論と分析手法を習得することを目指す。ミクロ経済学（とりわけ情報の経済学）と計量経済学（とりわけミクロ計量分析）について十分な知識が必要である。以下の参考文献から、本研究指導の対象となっている分野の概要を窺い知ることができる。		
	(参考文献) Freixas, X., and J-C. Rochet, 2008, Microeconomics of Banking 2nd ed., MIT Press. Tirole, J., 2006, The Theory of Corporate Finance, Princeton Univ Press.		

か〜こ

研究指導名	理論経済学	担当	笠松 学
			[教授]
研究テーマ	生産と分配の理論、特に、交換と消費の理論から派生した分配理論との比較・検討に関心がある。		
	これまで、例えば A New Guide to Post-keynesian Economics などをテキストにして、広く「ポスト・ケインジアン」と呼ばれる理論を検討してきた。来年度も類書あるいは適当な論文をテキストとして使用する予定である。		

研究指導名	応用マクロ計量 経済学	担当	片山 宗親
			[准教授] Ph.D. (Economics) (カルフォルニア大学サンディエゴ校)
研究テーマ	本研究指導では、マクロ経済理論と実証分析のインタラクションに焦点をあてる。履修する学生は、理論モデルをデータに当てはめる構造推定的なアプローチか、ファクトファインディングのための誘導系アプローチをとることが出来る。前者の場合は、動学確率的一般均衡 (DSGE) モデルの基本的な理解を持っていることが期待される。また、後者の場合、学生は時系列データの計量分析と統計ソフトの使用に明るいことが望ましい。これらは必須ではないが、研究上必要なツールを自ら積極的に学ぶ姿勢が要求される。		

研究指導名	国際経済論	担当	金子 昭彦
			〔教授〕 博士（経済学）（大阪大学）
研究テーマ	修士課程においては、広く動学マクロ経済学を元にした国際マクロ経済理論、もしくは貨幣経済理論について指導する。具体的には：国際資本移動と経済成長の関係、貨幣政策と経済成長および厚生などである。1年目は自ら文献を熟読し研究テーマを探し、2年目に実際に論文作成を始める。		
	学生は、学部レベルのミクロ経済学、及びマクロ経済学の知識はもとより、英語専門論文を読むための能力も必要とされる。		

研究指導名	日本経済史	担当	川口 浩
			[教授]
研究テーマ	本研究指導では、近世～近代における日本経済の実態、並びに日本経済の担い手たちの経済思想の歴史的分析を目指している。受講者は日本経済史・経済思想史に属する諸問題の中から自己の研究テーマを選択することができる。受講に際しては、日本経済史・経済思想史に関する学部授業程度の基礎的知識を習得していることが必須であり、さらに近年における研究成果に一通り目を通していただくことが望ましい。また、隣接諸領域に対する幅広い関心を保持することも大切である。歴史研究では、史料の収集と解説という地道な作業が求められることを付言しておく。		

研究指導名	理論経済学	担当	河村 耕平
			〔教授〕 D. Phil（経済学）（オックスフォード大学）
研究テーマ	情報やインセンティブに関する学術文献（特に応用理論・経済実験に関する論文）を批判的に検討し、現実と理論を結び合わせ、現実にかかる現象を理解するためにモデル分析を行うスキルを習得させるのが本研究指導の目的である。受講者の関心と予備知識に合わせて、課題とする文献やテキストを適宜指定する。受講者にはミクロ経済学・ゲーム理論に関する十分な基礎知識と並んで、現実の社会問題に対する強い関心が要求される。		

研究指導名	Theoretical Economics	担当	KVASOV, Dmitriy
			[Associate Professor] Ph. D, Economics (The Pennsylvania State University)
研究テーマ	This course deals with positive political theory, the study of politics using formal methods such as social choice theory, game theory, and statistical analysis. In particular, the participants will study game theoretic methods that are often used to describe and analyze the performance of voting rules or political institutions. It is required for the students to have a basic knowledge of game theory and microeconomic theory, and mathematics.		

研究指導名	グローバル経済史	担当	小林 和夫
			[准教授] PhD (経済史) (ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)
研究テーマ	グローバル経済史に関する文献を輪読する。輪読文献は、イギリス産業革命、経済発展の比較史、工業化の類型化、人の移動（奴隷貿易・移民など）、モノから見る歴史（銀・綿など）など多岐に及ぶ。輪読を通じて、1年生は自らの研究テーマを定め、2年生は比較と関係の視点から、自身の研究テーマをグローバルな文脈のなかに位置付けることを目指す。		
	受講希望者は、担当者の学部開講科目（「経済史入門」）を履修済であることが期待される。英語論文を読解するための語学力は必須である。修士論文を日本語で執筆することは認めるが、受講生の顔ぶれによっては指導での使用言語を英語とする可能性もある。		
	候補文献： Tirthankar Roy and Giorgio Riello, eds., <i>Global Economic History</i> , London: Bloomsbury, 2018. Kevin Hjortshøj O'Rourke and Jefferey Gale Williamson, eds., <i>The Spread of Modern Industry to the Periphery since 1871</i> , Oxford: Oxford University Press, 2017.		

研究指導名	国際政治経済学 (経済)	担当	小西 秀樹
			[教授] 博士 (経済学) (東京大学)
研究テーマ	公共経済学、公共選択論を基礎として、政策決定のメカニズムとその帰結、あるべき制度の構築について、理論的あるいは実証的に研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「国際政治経済学」だが、研究内容は「政治の経済分析」であり、国際政治や国際経済に特化したテーマとは基本的に無関係なので注意せよ（研究テーマの例としては、たとえば小西秀樹「公共選択の経済分析」（東大出版会）を参照せよ）。教材には最先端の英文論文や大学院レベルの英文テキストを用いるので、それらを読みこなすのに最低限必要なレベルの経済学、数学についての知識、および英語力を持っていることが必要である。経済学については、①ミクロ経済理論、②非協力ゲーム理論、③計量経済学の基礎を、学部上級レベルで一通り習得していること、数学については、実数解析、線形代数、最適化理論について、最低限、理科系の大学受験レベルで習得していることを受講生に求める。		

研究指導名	計量経済学	担当	近藤 康之
			〔教授〕 博士（社会経済）（筑波大学）
研究テーマ	本研究指導の目的は、応用ミクロ計量経済分析（産業連関分析を含む）および関連する計量経済理論的研究を行うことにある。応用分析対象の基礎となる経済理論の学習、関連先行研究の文献調査等、および計量経済学方法論について指導を行う。 学部水準の計量経済学と経済理論の習得を前提とする。		

さ〜そ

研究指導名	統計学	担当	西郷 浩
			〔教授〕 修士（経済学）（早稲田大学）
研究テーマ	本研究の目的は、経済統計データの収集・分析に関連する統計理論的・実証的研究をおこなうことにある。おもなトピックとして、標本調査論、リサンプリング法、回帰分析があげられる。とくに標本調査論とリサンプリング法（その標本調査論への応用）、欠測データ分析が担当者の専門分野である。		
	統計学が研究の主体となる。実証分析の特定のテーマに関心があり、統計分析を副次的に利用する研究を修士論文のテーマとする場合は、他の研究指導を選択すること。		

研究指導名	空間経済学	担当	齊藤 有希子
			〔准教授〕理学博士（東京大学）
研究テーマ	地理空間に関わる経済現象、特に企業間ネットワークに関わる研究テーマの指導をおこなう。政策提言など、社会とのつながりを意識し、実証研究をメインに行うが、理論研究の理解も不可欠である。受講者には統計学・計量経済学・ミクロ経済学に関する十分な知識が必要である。また、英語の実証研究論文をよみこなす力に加え、研究成果の社会へ発信する能力、英語の学術論文を執筆する力が求められる。		

研究指導名	計量経済学	担当	坂野 慎哉
			[教授] 博士（経済学）（京都大学）
研究テーマ	本研究指導では、主として実証分析に必要な計量経済分析の方法論を学んでいきます。ですから、例えば「医療経済」についての実証分析を行いたい場合は、医療経済学の先生に副指導教員になっていただく必要があります。受講生は、経研必修科目の「統計学」レベルの統計学の知識、および大学学部レベルの線形代数・微積分の知識が必要です。		

研究指導名	経済学史	担当	坂本 達哉
			〔教授〕 博士（経済学）（慶應義塾大学）
研究テーマ	本研究指導は、履修者が経済学史・思想史研究の基本的な知識と研究方法を習得できるようになることを目的とする。私の専門は 18 世紀イギリスのヒューム、スミスを中心とする経済学の形成時代であるが、履修者の興味・関心を尊重し、欧米の 17-8 世紀から現代までの経済学・経済思想の歴史と明治維新から現代までの日本の経済学・経済思想の歴史を主な対象とする。 主な指導方法は、1. 経済学古典の精読とディスカッション、2. 経済学史・思想史研究の古典的な研究書・論文の精読とディスカッション、3. 修士論文の提出を目指した学術論文の基本的作成法（文献収集の技法と論文執筆の方法等）の実践的指導、の 3 つである。いずれにおいても、履修者の自主性と積極的な研究姿勢がもとめられるが、指導を受ける前提としては、学部レベルのミクロ、マクロ、経済史の基本的内容が理解されていれば十分である。		

研究指導名	理論経済学	担当	笹倉 和幸
			[教授] 博士（経済学）（早稲田大学）
研究テーマ	マクロ経済理論を研究する。扱う主なモデルとしては、伝統的または新しいケインズモデルや、新古典派的な最適成長モデル、世代重複モデルである。最初の１年間で自分に合ったマクロ経済学の最新のテーマを探し、次の１年間で修士論文の完成に向けて研究することになる。		

研究指導名	国際日本経済史	担当	鎮目 雅人
			[教授] 博士（経済学）（神戸大学）
研究テーマ	本コースでは、グローバルな環境変化を意識しながら、近世以降の日本経済史に関するトピックについて実証的に掘り下げていくことを学ぶ。修士論文の作成を通じて、課題の設定、先行研究の読み方、テーマに応じた実証研究のさまざまな方法論（資料批判、数量経済史的アプローチ、オーラル・ヒストリー等）、実証結果の解釈といった経済史を実証的に分析するために必要な技能を身につける。履修にあたり日本経済史に関する学部上級レベルの知識は必須である。		

研究指導名	政治経済学方法論	担当	清水 和巳
			〔教授〕 経済学博士（グルノーブル大学）
研究テーマ	経済学と政治学は伝統的に異なった学問としてみなされてきた。しかしながら、両学問分野の分析対象は、個々人あるいは個々のグループの意思決定や選択の相互作用の結果生じたものである。このような観点にたち、政治経済学の研究に必要な研究手法－統計分析、数理モデル、実験、シミュレーション、世論調査、規範理論など－の方法論的位置づけを吟味し、ついで、その応用について具体的な政治経済現象の分析例を示す。		

研究指導名	農業経済学	担当	下川 哲
			[准教授] Ph. D. (応用経済) (コーネル大学)
研究テーマ	本研究指導では、世界中の食糧、健康、貧困に関する問題について、ミクロ経済学の枠組みを用いて実証的に検討する。農業経済学もしくは開発経済学の教科書を使い、学生による輪読を中心に行う。学術論文の精読や研究発表も必要に応じて行う。学部レベルのミクロ経済学と計量経済学の知識があることを前提とする。また、主な使用言語は英語なので、教科書を読んで議論し、修士論文を執筆できる英語力が必須。		

研究指導名	社会政策	担当	白木 三秀
			〔教授〕 博士（経済学）（早稲田大学）
研究テーマ	本研究指導では、外部労働市場および内部労働市場で生起する労働諸問題ならびにそれへの対応としての労働諸政策の理論的、実証的研究を幅広く行う。幅広く行うということは、国際比較研究を含み、また企業内の人的資源管理の研究もこれに含めることを意味する。当該分野における問題意識が強く、地道なフィールドワークを厭わない活力に富む人材の参加を歓迎する。		

研究指導名	公共経済学	担当	須賀 晃一
			[教授] 博士（経済学）（一橋大学）
研究テーマ	この講義では、修士論文作成のための基礎力養成を目的として、公共経済学の理論に関する基本文献を輪読する。具体的な研究テーマとしては社会的選択、制度設計と価値理念、租税論、社会保障論、環境問題などの領域を考えている。中級程度のミクロ経済学（数学的手法も含む）の修得を前提として講義を進める。開講時までに、J. Stiglitz & J. Rosengard, <i>Economics of Public Sector</i> , 4 th ed. Norton, 2015（スティグリッツ『公共経済学』（上、下）東洋経済新報社、2003, 2004 年.）を読んでおくこと。		
	参考文献：J. Hindriks and G. D. Myles, <i>Intermediate Public Economics</i> , 2 nd ed. MIT Press, 2013. B. Salanie, <i>Microeconomics of Market Failures</i> , MIT Press, 2000. B. Salanie, <i>Economics of Taxation</i> , 2 nd ed. MIT Press, 2011. A. L. Hillman, <i>Public Finance and Public Policy</i> , Cambridge UP, 2003. J. Leach, <i>A Course in Public Economics</i> , Cambridge UP, 2003. L. Kaplow, <i>The Theory of Taxation and Public Economics</i> , Princeton UP, 2008. R. W. Tresch, <i>Public Sector Economics</i> , Palgrave Macmillan, 2008.		

た〜と

研究指導名	開発と環境の経済学	担当	高橋 遼 [准教授] 博士（国際協力学）（東京大学）
研究テーマ	開発途上国をフィールドとする開発経済学、もしくは環境経済学に関する実証研究に取り組む。研究テーマは学生の関心のもと設定し、データ収集、分析、論文作成について研究指導を行う。大学院初級レベルのミクロ経済学や計量経済学の知識を前提とし、統計ソフトを用いた計量分析の習得が必要となる。 ゼミは学生の研究発表を中心に英語で行い、論文の講読も必要に応じて行う。		

研究指導名	理論経済学	担当	田中 久稔 [准教授] Ph. D （経済学）（ウィスコンシン大学マディソン校）
研究テーマ	経済学とくに計量経済学理論の様々な場面で用いられる数学的手法の基礎を学ぶ。受講生の関心に応じて、計量モデルの識別性、推定量の効率性や漸近特性などからトピックを選ぶ。履修希望者には解析学（できれば測度論）の知識があることが望まれる。		

研究指導名	金融工学	担当	玉置 健一郎 [准教授] 博士（理学）（早稲田大学）
研究テーマ	本研究指導では、従属性をもつデータの統計分析手法である時系列分析について学び、それらの手法を経済・金融データの分析に応用することを目的とする。実際には、関連分野の文献の輪読と、総計ソフトウェアによるデータ分析やシミュレーションを行う。さらに、本研究で必要となる数学および統計学の知識を同時に学ぶ。		

研究指導名	アジア経済論	担当	戸堂 康之 [教授] Ph.D.（スタンフォード大学）
研究テーマ	国際経済学・開発経済学・日本経済論に関する実証研究の立案、現場体験、データ収集、分析、論文作成、口頭発表を通じて、グローバル・リーダーおよび世界水準の研究者の育成を目指す。ゼミは英語で行い、学生の研究発表を中心に、論文の講読も必要に応じて行う。担当教員の研究テーマは、社会・経済ネットワークが経済成長・発展に及ぼす影響、国際貿易・海外直接投資が企業の生産性・雇用に及ぼす影響、政府開発援助のインパクト評価などに関する実証研究であるが、学生の研究テーマは必ずしもその枠内である必要はない。学部レベルの計量経済学の知識、および論文が読めて最低限話すことのできる英語力が必要である。希望者は担当教員のウェブサイト（ http://www.f.waseda.jp/yastodo ）を熟読しておくこと。		

研究指導名	理論経済学	担当	戸村 肇 [准教授] Ph.D.（経済学）（ロンドン大学）
研究テーマ	- ミクロ経済学の金融契約モデル、もしくは金融制約入りの動学一般均衡モデルを用いた数理均衡分析を修士論文で行いたい学生向けの演習になる。これらの分析の例としては以下の文献が参考になるので、応募をするかどうか決める際に見てみることを勧める。（ミクロ理論モデルの例） - Xavier Freixas and Jean-Charles Rochet, 2008, Microeconomics of Banking, MIT Press.（マクロ理論モデルの例） - Stephen Williamson, 1987, “Recent Developments in Modeling Financial Intermediation”, Quarterly Review 1132, Federal Reserve Bank of Minneapolis. - 必要となる数学的知識としては、制約条件付き最適化理論とゲーム理論の学部上級レベルの知識は必須になる。加えて、動学一般均衡モデルの分析を行いたい場合は、差分・微分方程式、動的計画法、コンピュータープログラミングの知識も必須になる。 - 担当教員の研究手法は、数学を使った均衡モデルの理論分析であり、データを使った実証分析・金融工学は専門外なので注意すること。 - 演習は原則として英語で行うので注意すること。		

な～の

研究指導名	国際経済論	担当	内藤 巧
			[教授] 博士（経済学）（大阪大学）
研究テーマ	国際貿易理論の代表的な論文を精読する。論文は主に AER, EMA, QJE, JPE, RES のトップ 5 ジャーナルか JIE などのトップフィールドジャーナルの論文から選ばれる。経済学部上級レベルの国際貿易, ミクロ経済学, マクロ経済学, 計量経済学, 数学の知識が必要である。この研究指導（国際貿易理論）は国際貿易の実証分析, 国・産業のケーススタディー, 貿易実務, 国際金融・国際マクロ経済学等を研究する学生のためのものではない。志望者は< http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html >を読むことが必要である。		

研究指導名	産業エコロジー	担当	中村 慎一郎
			[教授] Dr.rer.pol (ボン大学)
研究テーマ	経済と環境の相互依存関係を探求し、持続可能経済の達成を計るのが産業エコロジー学 (Industrial Ecology, IE)の目的である。このために重要な課題が経済活動の及ぼす環境負荷を定量的に評価することである。そこでは、経済と環境の関連を現実的かつ操作可能な形で表現する数理モデルが中心的な役割を果たす。この種のモデルとして近年注目されているのが産業連関モデルである。本指導では、履修者の研究関心を考慮した上で IE への応用を念頭に置いた産業連関モデルの理論と応用、及びその周辺領域を扱う。指導の目的は関連 IE 分野における主要な研究成果を踏まえた修士論文を作成することである。		

研究指導名	医療経済学	担当	野口 晴子
			〔教授〕 博士（経済学）（ニューヨーク市立大学）
研究テーマ	本研究指導では、准公共財である「医療サービス」のさまざまな特徴を、近代経済学の理論的枠組みを用いて需給両面から多角的・包括的に検討します。研究指導では、Cuyler AJ and Newhouse JP (2000) “Handbook of Health Economics, Volumes 1A and 1B”, edited by North-Holland, Elsevier Science を教科書として、医療経済学に関する先行研究（邦文・英文）を輪読し、理論と実証との対話の中で、現代の日本における医療政策に資する政策研究のありかたについて模索していきます。		

は～ほ

研究指導名	応用マクロ計量 経済学	担当	BAAK, Saang Joon
			[Professor] Ph. D. (Economics) (University of Wisconsin-Madison)
研究テーマ	The purpose of this class is to learn how to analyze economic data using econometrics to explore various economic issues. The current research topics of the instructor are the followings: (1) Measuring misalignment in exchange rates; (2) Impact of exchange rates on trade and investment; (3) Economic cooperation and competition among East Asian countries; (4) Effects of monetary policies in Japan. Students who have not studied undergraduate level econometrics (or, equivalent course such as intermediate statistics) should not apply. Both English and Japanese can be used for individual instructions and communications depending on the needs of students. However, a thesis should be written in English.		

研究指導名	国際経済論	担当	濱野 正樹
			〔准教授〕経済学博士（レンヌ第一大学）
研究テーマ	国際金融論や、国際貿易論の分野における理論・実証研究を行う。貿易財の輸出、輸入から、とくにその総計である貿易収支、経常収支といったマクロ変数のふるまいを主に研究する。受講希望者は計量経済学、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎知識があることが望ましい。英語の知識は必須である。自主独立の気概を持った学生を歓迎する。参考文献は Stephanie Schmitt-Grohe, Martin Uribe and Michael Woodford: International Macroeconomics An Intermediate Undergraduate Textbook Handbook of International Economics, edited by Gita Gopinath, Elhanan Helpman and Kenneth Rogoff		

研究指導名	開発経済論	担当	深川 由起子
			[教授]
研究テーマ	変遷めまぐるしい経済開発論は英語圏では南西アジア、アフリカなどをフィールドとし、「市場メカニズムの機能不全」を前提とした、農業・農村部門の応用ミクロ経済分析が主流となっている。他方、日本や東アジアでは多くの「卒業国」の経験から外向き開発戦略に関心が集中し、国際経済学やマクロ分析からの接近が主流となっている。演習では前半で市場分断、労働移動、家計、信用市場など一通り主流の考え方を学ぶ。その上で、後半では経済的テイクオフを終え、工業化が加速する東アジア経済の実証研究を踏まえつつ、貿易、直接投資、援助、債務問題、構造調整、経済統合などと国際開発の諸問題に取り組み、両者の発想の違いにも理解を深めることを目指す。学部レベルのミクロ経済学、国際経済学を履修済みであることが望ましく、論文の読める英語力は必須である。		

研究指導名	公共政策	担当	福島 淑彦
			〔教授〕 経済学博士（スウェーデン王立ストックホルム大学）
研究テーマ	本研究指導は、広い意味での「労働経済学」を基礎として、「社会」の厚生水準を高めるための政策や制度について、経済学視点で理論的或いは実証的アプローチで研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「公共政策」であるが、研究内容は主に「雇用」、「失業」、「人的資本」、「賃金」、「教育」、「訓練」、「労働市場における差別」、「転職」、「家庭内労働」「労働組合」、「福祉」といった「人が働くこと」に関する政策や制度を中心に、修士論文作成のための研究をサポートする。教材には、英文論文や英文テキストを用いるので、それらを読みこなすための「経済学」「数学」の基礎知識に加えて、英語力が必要となる。		

研究指導名	数理経済学	担当	船木 由喜彦
			[教授] 理学博士（東京工業大学）
研究テーマ	ゲーム理論とその応用、および実験経済学の研究を行う。ゲーム理論は情報の経済学、産業組織論、国際経済学、環境経済学、経営学、政治学、社会学、生物学など多くの分野で用いられる重要な理論的分析手法である。相手が存在し相手も合理的な行動をとるということを前提に、個人の合理的な行動を厳密に定義することからはじめ、社会・経済など相互依存関係のある状況における各個人の合理的な意志決定およびその帰結を研究する分野である。 本研究指導では、ゲーム理論の理論研究を中心とするが、その応用についても担当教員の守備範囲の中で、研究することができる。 また、これらの理論のとおり実際に人々は行動するのか否か。どのような条件の下では、理論通りの行動が現れるのか。このような問題は、近年、非常に注目されており、その研究分野は実験経済学と呼ばれている。本研究指導では、実験経済学に関する研究を行うことも可能である。 ゲーム理論は大別して非協力ゲームの理論（標準形・展開形ゲーム）と協力ゲームの理論（提携形ゲーム）に分けられ、両理論を並行して修得することが必要である。また、実験経済学の研究を行う者も、ゲーム理論の研究は必須である。そのためには数理経済学研究、特論等の受講や大学院生向けセミナーへの積極的な参加が要請される。この研究指導ではこれらの知識をもとに、受講者の興味に従い、関連する論文の講読、議論を行う。 なお、ゲーム理論、ミクロ経済学の基礎的な知識、および、解析学、位相数学の初等的な知識を必要とする。		

研究指導名	計量経済学	担当	星野 匡郎
			[准教授] 学術博士（東京工業大学）
研究テーマ	この研究指導では、履修者の希望と必要性に応じて、ミクロ計量経済学の理論と実証分析について学習する。特に博士課程への進学を希望する学生にとっては、単に計量経済手法を習得するだけでなく、それらを数学的に厳密に理解することを求める。すべての応募者に共通し、学部レベルの計量経済学（OLS や操作変数など）、確率論、解析学や線形代数の知識を前提とする。		

ま～も

研究指導名	労働経済学	担当	村上 由紀子
			〔教授〕博士（経済学）（早稲田大学）
研究テーマ	本研究指導では、経済の中でも「人材」や「労働」にかかわる研究課題を幅広く扱う。人材の育成、労働者の効用の増加、労働問題の解決、イノベーションや経済発展に向けた人的資源の活用等について、理論的・実証的に研究し、かつ、関連する政策や制度の構築についても考察する。研究課題の例として以下のものが挙げられるが、上記の包括的な研究テーマにマッチする新たな視点の研究も歓迎する。		
	・教育・人材育成・キャリアディベロップメント（学校教育、企業内教育訓練、公共職業訓練を含む） ・労働移動（国際移動、地域間移動、転職、昇進、配置転換など） ・労働市場の情報、マッチング ・賃金・所得分配 ・時間資源の配分 ・人材の面からのイノベーション研究 など		

研究指導名	アジア経済史	担当	本野 英一
			[教授] D.Phil （オックスフォード大学）
研究テーマ	中国に象徴されるアジア専制主義国家の特徴を扱った理論書と、「対外開放」体制期中国を扱った文献を読みながら、20 世紀中国経済を歴史的に考察していく。		

や～わ

研究指導名	ファイナンス	担当	山本 竜市
			[教授] Ph. D. （ブランダイス大学）
研究テーマ	ファイナンスとは資産運用・取引、リスクマネジメント、投資の意思決定に関する研究全般を示します。研究テーマは学生の希望に応じて設定されますが、本研究指導ではファイナンス分野（特にマーケットマイクロストラクチャーや行動ファイナンス）の理論・実証分析を研究課題とします。ファイナンス分野の学術論文のサーベイを通じ研究テーマの探し方、論文の書き方、研究発表方法など指導します。		